

科目名	周術期医療基礎論	担当教員	森野陽 佐藤明紀 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	----------	------	---------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	1単位	講義

科目概要	その一部を担う機会が増えつつある。また、早期離床回復の為にリハビリテーション施行の早期化が図られる必要がある。本科目では、癌や急性呼吸不全、外傷、熱傷などといった周術期ならびに急性期リハビリテーションにおいてかかわることの多い疾患について、その病態、治療に関して学習するとともに、またその中におけるリハビリテーションの役割を理解し、チーム連携に対応できる能力を養う。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周術期領域におけるチーム医療について理解できる ・疾患ごとの周術期医療について理解できる ・周術期医療におけるリハビリテーション評価について理解できる

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	総論	オリエンテーション、周術期医療の概要 周術期におけるチーム医療	周術期のチーム医療における各職種の役割について理解できる。	
2	医療機器	代表的な周術期の医療機器	周術期において用いられることの多い医療機器について理解できる。	
3	胸部疾患、腹部疾患の周術期	胸部疾患、腹部疾患に関する周術期医療	胸部疾患、腹部疾患における周術期医療について理解できる。	
4	集中治療	集中治療によってもたらさせる病態	ICU Acquired Weakness、Post ICU syndromを中心に、集中治療によってもたらされる病態について理解できる。	
5	がんの周術期	がん患者（上皮性、非上皮性、造血由来）の特徴について	がん患者（上皮性、非非上皮性、造血由来）の特徴について理解ができる。	
6	周術期の評価	周術期に必要な評価について	周術期に必要な評価について理解できる。	
7	周術期管理 1	周術期で見られる主な合併症の理解と、その管理・予防方法について	周術期で見られる主な合併症の理解と、その管理・予防方法が理解できる。	
8	周術期管理 2	合併症の特徴の1つに挙げられる浮腫に対する、必要な評価と治療法について	合併症の特徴の1つに挙げられる浮腫に対する、必要な評価と治療法について理解ができる。	
評価方法		筆記試験(100%)		
教科図書		教員作成資料		
参考図書		日本リハビリテーション医学会 / がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会；がんのリハビリテーションガイドライン、金原出版 がんのリハビリテーション/医学書院 日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会(編)；周術期管理チームテキスト第3版、日本麻酔科学会		
学習の準備		特になし		
オフィスアワー		常勤講師は、在室時はいつでも可能。		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験				